事実とテクスト再考 Fact and Text reconsideration

森田　均† Hitoshi Morita
†長崎県立大学 University of Nagasaki
morita@sun.ac.jp

筆者は，これまで表現技法としてのハイパーテキストに着目し，受容理論を理論的な支柱として通常のテクストからの変換手順や評価方法の提案をした．また，すべての表現技法の中間的存在として，さらにコンテンツの乗り物としての概念を拡張し「フローティング・ハイパーテキスト」を提唱した．一方でこのコンセプトを確立させるための基盤として，コミュニティ放送局という最小規模のラジオが開設した全ての Web の内容分析，「注文の多い料理店」の一次文献や二次的制作物に関する悉皆調査，長崎平和祈念式典の中継番組に関する過去 50 年分のすべての放送記録の収集を行っている．これによって，実世界における資料の検証を徹底させる手法を示した．

特にテレビ関連の研究は，テレビ放送が始まった 1953 年から 2007 年までの期間における平和式典テレビ中継の変遷を調査したものである．第一段階の基礎資料は，8 月 6 日，9 日のテレビ番組表で，長崎新聞，中国新聞，西日本新聞，朝日新聞（東京本社版）の朝刊から抽出した．

広島式典のテレビ中継は，1957 年に TBS が特別番組として初めて放送した．翌年には NHK が中継を始め，現在まで全国放送が続いている．民放の全国放送では，式典時間と重複あるいは隣接する時間帯に放送される朝のワイドショーで取り上げられる. 1975 年に地上波民放 4 系列のテレビ局が揃った広島では，全ての局が式典中継の特別番組を放送し続けている．

長崎式典のテレビ中継を最初に行ったのは，1963 年の NBC で現在まで毎年続けられている．長崎の地上波民放テレビ局が 4 系列揃うのは 1991 年であるが, 全て式典中継を放送し続けている. しかしながら全国放送の事例は極めて少ない．また NHK は，1970 年から 1999 年まで長崎式典を九州管区のみで中継していた．NHK の長崎式典全国中継は，ようやく 2000 年に始まったが，長崎とその他の県域では放送開始時刻に差異があった．長崎式典が NHK で完全に全国同時中継されるようになったのは 2005 年である．

以上のように，広島と長崎の平和式典は，テレビ番組としては同列に扱われていたとは言い難い．それでは，こうした圧倒的な事実の蓄積からどのようなモデル化が可能となるか．まずテクストと実世界との接点を以下の 3 点から検討する．

（1）文学の抽象モデル : 個々のテクストを解釈するのではなく，時間的・地理的に膨大に広がり様々に変容するテクストをグラフ，地図，樹状図を用いて地理学や生物学の手法を援用する考え方.

（2）歴史的テクスト : テクストの時間・空間による相違など対応する歴史資料の検討．歴史的事実は，物語の種子とも言うべき役割を果たす.

（3）テクストとしてのテレビ番組 : 内容分析には，テレビ番組の記号化というメタレベルにまで視野を広げた研究など，様々な分野で数多く行われているが，コード化は恣意的である．そこで対象を局所化した新たな試みを示す.

図 1 は，[1]によるテクスト内コミュニケーションの基本図式を一部簡略化したものである．テクスト内在美学の特徴でもあるが，作者と読者のコミュニケーションをテクストの内側と外側で区別している．この考え方は筆者が提唱したコンセプトと通じるところはあるが，ここでは最も外側にある実世界コミュニケーションよりも内側にある虚構内コミュニケーションの方がより上位の階層として位置づけられており，文学的メッセージを交換する送り手及び受け手とテクスト内メッセージのそれとは設定が異なる．そこで，図 2 に示したような変更を加えたモデルを提案したい．これによって固定された役割分担とメッセージが階層を越えてやり取り出来るようになる．現実には同一の人間が担うことになるが，受け手側を重層化させることによって多様な受容の可能性を示すこ

とも出来る．つまり，内と外のレトリックの延長として提示するものである．

上記は既に構想として明らかにしているが，今回の発表では冒頭に記した 3 種類の悉皆調査によるデータを具体例として，また歴史的事実をデータベース化することによって経験美学へ寄与する可能性を示した[2]を参照しつつ，コンセプトからモデル化を試みる．これは，圧倒的な量の事実から物語の生成へと迫ることができるのか，さらに事実から現実が構築可能なのかという問いに応える試みでもある．

参考文献

[1] Waldmann, Günter, (1976), Die Ideologie der Erzählform, München：W. Fink.

[2] Kopiez, Reinhard et al, (2009) “Clara Schumann’s collection of playbills”, Poetics, Vol. 37, No. 1, pp. 50-73.

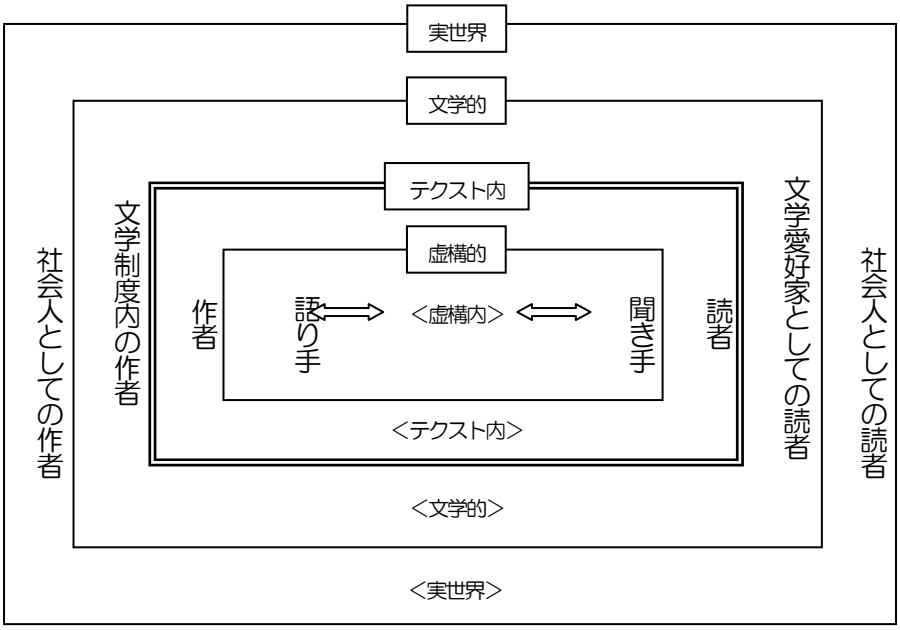

図１：[1]によるテクスト内コミュニケーションのモデル

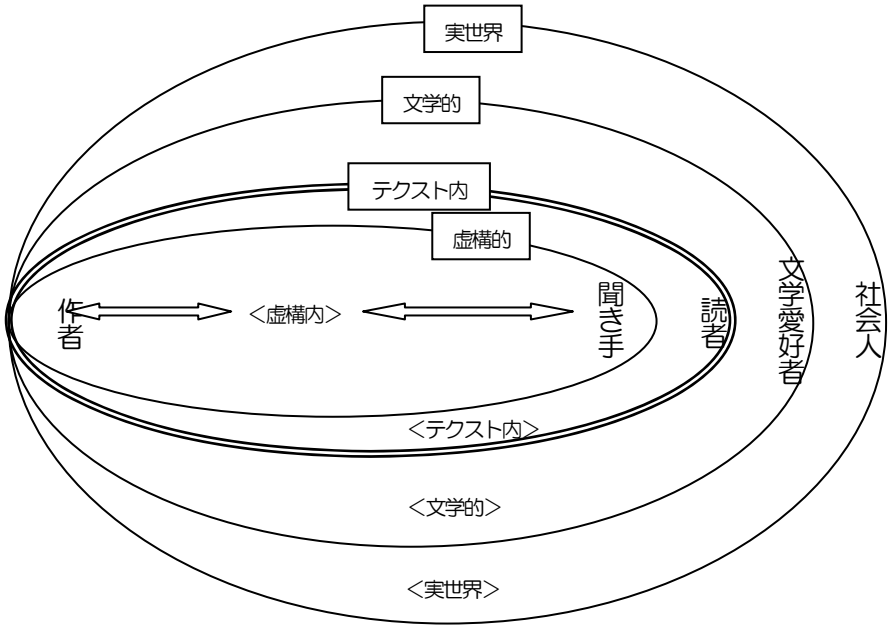

図２：筆者によるテクスト内コミュニケーションのモデル